花くらべ

清岡

へ13
3733
4

踊形容花くらべ

四編

目録
甘泉堂

へ13
3733
14

墨附十有二丁

目錄

發端ふ射檜くる巨怪猫の雙尾ハ光義義高ゞ善惡を趣向立くる追分跂
観音院の順禮ハ赴杪も怖べき無間の金箱阿産ゞ所持の二品ハ口あゐ苗
僧ゞ執揚ゞ横田川の無心狀ハ四を百ふする九六の才覺鈴鹿山の斷
言ハ田村ゞ不在ふ鬼の洗濯桑名ふ浪の乙姫ハ高窓太夫ゞ夜氣給合ゝ
見ゑ兄弟とかゝり果ゝ一包も破てその身を遠州灘虹ゞ丘ふ吐大言ハ
天日房ゞ身皆膽於辰ゞ顔の焼鏡ハこゝろを焦ゝ嫉妬の發火切くる火鑒
ふ怪談の氣ゝ打拔ゝ花麗ハ竹河ふくゝぬ河竹ゞ懷玉の種ゞ島當り
ゝくる檜木の伎を櫻木ふ載えんべくるゝ東海道を半分路後日の
爲と墨附ら〳〵餘ハ後の巻ゝ舒くりけるゝ

嘉永七甲寅仲秋

改 重八

柳水亭種清記

人丸於元
出影玄蕃

天日坊頼忍
北畠大納正忠

○義の枝ふかくこの天外ふ
三枝の横を敷て頭しける。
末は見るの巻ふ漂ふ
ひ紫の三位の助をひるる。

中将光義

○姫を文のふ松ふ手ふて雑
義ふ見ふる西沢の見業
ふと捨てとそ落ぶ

舟木雅楽之助

○実ひとびとの色ろな
落柏ふ立る様都。
育の三位ひそのひ
岡の巻園姫。

○雪を海をいてく
白妙なる宮の下ふ
楽隠の后忠義一偏の
孫右衛門興をゆむ

仮柔ふ入ふ姫ふ居の後眼
灯光もあ

赤里大八

○和るもの三位ヒヤ高ろ
き後宮浄ち後の後の

鳴沢花門

○雅の十枝の猫理冊
湖宝後ひら変のる
ふるめの袖をひろ
ぐまにふ撫まべ

荒波主税

天豊さこの名も歌ごとの五稲実の秋の末れ升屋つくる清浄きこゝの紅葉もし高き名たの幸福さの白浪ゆ枝ゆらんくるる三千三歌西の国東の宴たの面達実家も

天日の神の心

地世の波動成

常なる大くの稿の寛き廣元たの名いらゝかゞくの勇の三稿さゝと対ゆ

れど後ゞ姿の稜池に種と

るゝけまきまきもしまもの様浄行ゆゝの行きゆ時なゞ

地西の邪正

人呉りの天和の国の国をるゝ

まる姿の柳ゝ元様ゝ姿ゝさ

きゝゝたの春姿元の時ゝゝ

様国のゝゝ形の高ゝも

様ゝはのゝ様ゝ果ゝゝれ

附の高稿ゝのゝゝゝゝゝる

ゆ白の彩の業ゝかんゞゝ女

濃紫地彩ゝゝんせゝゝゝゝ

筋ゝゝの前ゝゝれる

人光於

天地人東路評判記の巻

板元 毎度うのごとくわるくちども天地人五十二次の錦繪合巻
見るのとおもへばひとふれとたてまつりまし

盗賊地雷太郎 実は竹川の忠義 観音院下男久助 実は大和いるぞのかみひろもと

鳴沢隼人正 三位妹花辰 板元 代々長初親方屋敷へ

出まりる下紙久助ふりまりる買物を組つく帰来り国恭とのの
新ぶり下男の仕わけそんご豆しふりまりる ヒイキ いろはも以礼の
恭を明る不ふりまるとあれら横田川へ来て死殘を見とあ
手拭くようやりまし 見物 まづくそふ蓋ちやアるやうだれら狂
おくこのあのいたはの廣元とのふ大名ごも何う雑義のくあふ
ゆをやつてゆる前ごくく法第の死ごいの脇み目京の天地
ゆのるいをさとさらべ交ど雑義の前ありとチヨト大名とふ

風が有てモチツト威光をうせねばならぬどころ仕おづてこるな
やうご 廣 おめへそんなふことをいひうるが廣元とふ勇
兼信のたれごりのるく年ばそあらるもりのるる 見物 おめへ
そんなふりをいやアあまもまづくこツこそあやうくな
給席のだん中りの面の指へ事へ見る墨の板ざちふも北雲
おる弟とのの大賊とへ前わへ古ふる板ゆんでばどうして
へそもわ模取ご世の続ゆもいふ通り康を迫ふ稲師へ山を
へんぞご 板元 モシくそれでいはいくて内でゆるを
ありてゆるやうふなえ中どでふぞいはれ神妙ふ事を知よて中
ヒイキ のこ四中りくアあの侍へのとりくこの 板元 さあうき
鳴沢隼人とヤ北条家の家来蔵崎紋右のぶつきとふ美系
の胸組栗栗の兵衛道中稽の紋合中りこ

[文章] そんなひとりぐらいのこのいろふも家老職のやうでゐんせどく法華経を
心止く仮戒名を出し　かうを詩歌の調のかどく　さらぬ[illegible]ど　晩夏の月うらうらとも
うまいのりのモシ　扨えノ　古寺の梅いろ[illegible]ど　晩夏の月うらうらとも

[ワルクチ] ヲヽそりやアのひどころぐ　[illegible]　そもうらうらとも　横うらうらとも　ありやア
どうぐうこれ　[illegible]ぬ丸で　南力の浪人りのうの　[見物者] あれもさうきうらく
いろぐ考てゐりやり　重りの方みも　西指がある　物の目たの目の
東海道を　盗賊　大体でなりをする　[illegible]　[illegible]ぬとそれど
やらいの出ぐらふとあれの遠　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
の[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

きさその上ふ地雷ち帝の手物い多ふ涙るゝ百ろ〜きのそびたよ〜ちゆを引
びのじ実ふ伊賀の殿いかゝやあらんず きびて長花食ろんのよ〜そ木ばまるちゆ丸ぐ

北条駿河の助　梅間中将義政

[板元] 表紙裏の組隠三蘇の
大殺害間のふい小条殺ゆゝ助時夏ふ子 [挿十] 侍ちゆ〜二編三編い
ゆんのその巳編ゞ出板さゝふ人の名を宮ふ活ゝさびまてはぞろむうち
摩ゑ孔樣の愛の色合ゃし嫁〜やとゆの〜〜いんきい光根ね函の乾づり
うんるゆゞさんさて殺ほのゆいちゆ白ゞ [見返] あゆのゆゞさ三ハ川ゆゆ長長を
ゞうとかきあげてやさしい嫁ゆらゝやうゞう何ゆてゆ長難ちゆゆ〜〜ふう
名ゆ〜ふ式家長屋の踊ゆふ付振〜猫ゝを謙ちるとゆれば本来ゆゝび
たびちゞ昇屋の人ゆゝび中ゆきぞうゆとゆふ伝とゆふりのゝよ〜かきまゝる
年ゆゝさ石田ふ射〜てひけをとゆゞ義目の問巻ゆゝ〜ゆてさゆやゝ
なりのゞゆゝ手ゞガせゆ上ゞふつゝゝゞ長ゆゆの [節見] そゆゆ長流の名別を

ふ安て義波ゆゝふ譲さのサ [図] 次ふ移康山の光義さゆふゆゝ手 [挿十] おゝや
実ふ公家のゆ生とゝある連判状のゝゞん威ゆゆ様ゝゆ仕打大勢の
盗賊ゆゝ逆ゝれての引迫ゆゝゆのゆゞれゞゞる [板元] 屋東樓ゝゝ楽名の
の紙のするゞれゆいゞゞゆゝ手ゝふる [挿十] ちんゆ〜せゝ上ゞの南ゆゆ弟ゆゝ
のゆのいゝゝるゆゝと [見返] 居処ゞゝゝふゆゞゆゝるゞのゆふゆゝゝ長難ゆ長ゞゞ
いゞゞゝゝゆ [図] ふ色合ゞ濃ゞゆるゆゝゞゞ長ゆゝゝゆゝゆゝゝゝゝ三作の位ゆ長ゝ
虚空侍婆の美義ゆ紙切振の振へゝゆいゝゝゝゝ紙ゆゝゝゝ
[挿十] あんゞゝゝるけゝゆゆまゞゞれゆゞゞ長ゞ雨ゞゝゝゆゆの長さ〜花園振をゝゝ
仕ゝゝゆ世長ゝと時代を打交ゞてよゝ〜かきゝゝ

鳥小屋樂助

[板元] お祭り上ゝゝる何卒ゝ主人の花園振お云号の
ゆゝねさゆ一見ゝゝゝゝ巳ゝゝゝゝ

那ぶ丸くの〻腹こゆうぶ四殿を勤うとこの腹うじて女中ぐえとるかあい あの口
又始ぶこせ ヒイキ ちもあれかるあい利てきぶぐあれうずんとの奉くあて親仕ぶ
この射通二度目ぶ丸ぐえるーとその智恵備ーと遊ぶふと内(遠)ぐふぐう恵
のこうぐせうみて親仕ぶ一方あびせられ血汐を服の同業ぶト草笛の物狂い
天狗ぶりのぐみうキトそぐたうんぐ戻る親仕のふさぐ嫁ーうみふのふ

〈勇沢花門のくぬ 龍宮侍かの藻 板元 かるもわぐんぐうもら

うみうキト新竹さんの下画ぐこのひとうんぐキて彩竹の色のもぐやら腰ぶ四の
今ぶまぐかーもやかみうキちせぬ 元西者 ひとうあるのぶわうぶの狩りぐぶりいぐうも
蛙めてかるぐらとうんぐふーんが 板元 ハテぐうりやうぐどのるぐ遠ぐみうキりみうぬうつけ
やうの跡れうんぐキト沢ぶ文新と智うキて沢花門の妖変ぶ暑もみうキト
せぬが宮藤の袴の古仕成(来て殺ぬのぬの身ぐうりふ妻ふあらうぐ死ぬ
ぐも早く動ぐくぶ目ぶかけうぐみうりキト宮めぐやんやとやりん

〈旅屋張〉 板元 コリヤうぐうぐし のうぶ方でやりキトと板元とうぶ目てみうキト
年ぶうぐうぐあうりキトが達者ぶ年ぐでうりキト 元西 此板こうや達者ぶうりのぶ三
今迄ぶのいうぐでき始沢花ぶ背徳ぶ稽塾の仕形うら酒ぶ酔ぐ突伏ぐぐん
車海とうのう年を板ぐうぐダが仕方のうのうみい歌めぐうあのうみいかさん
婆ァぶ千ト悪ぐのうんえるのが玉ぶ底ぐ ノウ

〈晴沢策房 実は高名の長谷川秀世 天日坊 百姓三作 元は香川秀世 隼人妻 鶴橋
直助花ぶ沢 勝 北条家の後家 宝蔵方 学法石の昆 板元 大坂の旅宿観音院(師匠)の供ーと戻ぐてまる小房ぶ法弟ぶ
みうキト若衆ぶ木綿の羽織袋ーうら常の色合きでどぐどぐまでもぶ傷
ら〜〜いうぶも十六七とうんぐキて可愛もらーいぐみうキちせぬら ふぐを うるわぐ
とこの程はぐうぐのいうぐうぐとぶふうとぬあれで殺を打とうぐとぶあうやア
利ぐーのまうぐのえうぐ利可愛ぐせ 元西 コウく かあんのゆうぶ鼻ぐんでとぶうぐ

面のうゑ味を消とゝふのそうや下面ゝ名あり河竹まつ消このごそん
ゑ石ふぬうゝねゝヤ今爰の中三枚とゝふのゝ近代粋な仕組やうごそのゝ人の
ヤ面ごゝの面ゑも光ゝ付弱ゞ打とゝあるゝそうやゝゑゑ恵とゝゝゝゝ親者
脱の法衆ゝ可知らゝゝで柳でゝも打ふゞあさん樂ゝゝの住家ゝ行て
強力蕎麦粉を物ゝようと婆ゝそ丸ちでゝあ殺ゝ紀ゝくゝも存幕ゝを
かゝらゝゝとゝゝゝ大打そゝゝゝちやゝ青沢の小房子でゝおゝゝうきうふう
サゝそれゝサゝくゝくゝドゞゞあゝゝゝくゝ見ゝやゝ丸で視ゝらゝゝそれゝ
ちゞゝ係まの形そゝゝるとゝゝゝ天の家を引出ゝゝ実ふゝ馬ゝ
河竹ふゞぎるゝ 引手 こうゝ天日坊の禅ぜんふ河竹だゝう養ゝる
ゝゞねゝノヲ 引手 ホゞねゝから河竹を出ゝごのゞ 引手 つまらねゝ
あゝまゝをゝひゝゑさゝゝゑ 引手 時ふゞゞゝさゝゝの住家でゝゝりもゞ
引手 ゝゝゝゝサゝゞれゞゝにゞゝねゝう 引手 あゝとさゝゞめ

ゝゝゝあれゞゝらゞぜゝゞゞゝゝの
紙をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゞまゝゝ知らゝゝのゝゝゝ根を
はゝゝゝゝゝゝゝゝゝ縁
ゝゝのゝゝ地をゝゝゝめて
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゞゞゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ

「コリヤ疲眠入ふ居こそふなこかそをぬそそ婆ヲを医蛮の二ふを
ろる仕打古今ふ稀なちぐ泡く 天手元 ダガ些あるョバ多くの
人者を雪て 裁ぐく

かくれる和
ふ猫ぢ

仕打ぐ人て様子の
振ぢ上が良らぬゆうぐの 元禄 ろる唐を
いとわ組合ぢんなたこそちるふがどこが面ぐ

どこまぐる
十六七の小僧ぐりの

それう敬重てたまるうのうそこが面うきこのよるこらふりの 天手元 そふにの功業ふあめぐ
いふぐの古寺へ来てさねへ「ちめ逢ものぬすのとを～あぐ～ぐんゆりとてのぐるア
トかへあぐらをかく～ぢい十六ちこうとわへせ 元禄 ちあもちく～もねへ理屈をらふ
ふあうりや面の表情ぐ体裁ぐ体裁ぐ本まちる要とらふあぐりのうのうの
ふ小僧ぐやア押がきるふへそれいまぐあと様子川ぐ 天手元 裁きを切破て表弟
出てちくるの実らをなぐる細の仕ちちぐのり木 天手元 大きへけりやア庇葉でも閉る
ぐらう 元禄 次い鈴鹿山でのり木 元禄 物格ふを押崩～能楽来ふ鬼の面新のう
えねそのうのい実ふ千両ともつぐ～親世もおそらく老を失ふ人菊扇ふく
面をかくさん究竟く～ 天手元 そのお表東を 天手元 接て体裁年りのせちの形い牡丹の花
（牡丹の花一ぢ人同ぐかそのと恥ちい基ぐ葉名の大紙ふてる実ち実と長束
の名実合とがけてゆうぐ長ちはまり～て百両の金をちらひあつて那巻ふ長る
仕ちち小僧のゆうるあもうんえかうりのゆうる風情もあつて長赤らひぐんさらふ

の顕はして海へ飛入岩へ上つて二人なるのよきく大出来〳〵 [ルビ] うろ〳〵私ふ[illegible]揚て向ふへ這入る仕ぶ[illegible]い私ぐみぞあもつて者〳〵いぜ [ルビ] ありゆア[illegible]をぬいさのよ

[ルビ] 次の遠州虹ヶ崎の古寺でみり手下 天日坊ヶ目ぬきの場面 [illegible]う彩上もる [ルビ] 虹ヶ岡の古寺い出て来る [illegible]水でぬれた衣裳をまぐりうるぐ〳〵宿を乞ふとい寺ぐ前をかつて殿造り内へ這入て天日坊の下格ふ湯こ表お義を白を振ふ着彩る時私でかるうる百両をぞつさうこ落〳〵と音をもるこを奥のぜきふたるこぶ彩と仕ぶが有て大八左九郎山蔵ふ[illegible]を[illegible]

[illegible]

[illegible]

[ヒイキ]孫右衛門親仁の水口のかうしをとりて宮の下の住居つゞき[ふ]をみつる
りのゞみふ大安寺〜
〈人丸塚〉[ひとまるつか]　[今井にしがいもとかけり]　[京]原傾城高岳[けいせいたかをか]　[ヒイキ]ゆ[遊]い彩ゞ
ゑ二編のんあと二年もたつるのゆうぐうこうこう下女に茅ぶりゞゑ平〜〜とあくまを
ゑよ[遊]〈五〉〜最初の時礼出[れいだし]の傾城おとをいうゞでうもちゆ[作]ゆ〜ゆ
ゑ〈十人十色〉をいふやうゞこうこう時礼のうちいうをゞゑいとふのもたそやゞこ
ゝ[ゝ]のゆうをゝ接と下ゑい例のあゞゑゑ[ゑ]わゑ[ゑ]の時ゑ[ゑ]ゝが出て来て級
切取の形の時也「コレとゝよのゞ花ゑ[ゑ]ゝ[ゝ]ゞ[ゞ]ゝ[ゝ]ゞ[ゞ]ゝ[ゝ]ゞ[ゞ

[illegible]遠られてゆりもりるその面姿さうしる面三人若ふあり銀ヶ[illegible]れば[illegible]の[illegible]
ぎりせうとの白服ゆうしるる古年化猫もひとりぐミかある相模玉[illegible]毋
〜ふりもりる次ふ八蓋の蜃気楼侍女のとるめふり市る[illegible]ふ
かるものくでんもいくたいをてゞ冠の男ちゞひとるめれをよ〜ゝるふ
両色を容中ふ押出て難ふるゆうる面面があるゞどふでもかもりへ嫌
でふある男のまり〜それいどうでもあへと今年ゆるめ〜十ふそうゞ
ぐり〜柵樹を寄育さ実ふ家の猪どころ千株万家
甘泉の瀧〜とて滝出るゞ〜ゝ遠ゞ〜も

月出て及やり

天地人東道海外先の巻了

相模名所八景

一陽斎豊国画
柳水亭種清作
初編八十編迄四年出板

世の中の物様々なる時の属るとふつけ好美の品ふあらざれば
称美〜九年ゆゞ稀世玉地ふ看る花も言ハぐれへ称るふとろふく彼め
豊国大人ふ画ける仮彩も好て彩へ家ひくゞ好事ふろゞを彩へ
世とられ如彩ふ[illegible]ふ知ふ巻るさふを[illegible]ゞ
愛る看あり非る貴賓あり死性る人物ふ踊ゞろ笑つゞるゞ如くその形容の色香
を絞ゞる筆を操あるあ彩彼ゞるゞの協ふ交代毎出板ゆゞ義へ〜〜書出を
後のゞを求めゞ迄ふ筆の程伏る奉希上いゞと

板元 甘泉堂敬白